

平成19年7月
編集・発行 農林水産省経営局普及・女性課

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

このメールマガジンは、普及事業に関する情報などを、登録された皆様に無料でお届けするものです。もし、まわりに登録されていない方がいましたら、ぜひ登録をお勧めください。
登録先は、<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>をご覧ください。

- ◎ ☆普及・女性課からのお知らせ◎
- ◎ ・集落営農緊急育成サポートツールについて◎
- ◎ ・農林水産省生物多様性戦略の策定について◎
- ◎ ・知的財産専門研修及び支援窓口の開設のお知らせ◎
- ◎ ・農業改良資金最新貸付事例紹介◎
- ◎ ◇先端産業技術研究課からのお知らせ◇◎
- ◎ @編集後記◎

☆普及・女性課からのお知らせ☆

【集落営農緊急育成サポートツールについて】

新たな食料・農業・農村基本計画において、将来の我が国農業の担い手として集落営農が位置付けられ、集落営農の育成・確保・定着化を図ることが急がれております。

このため、平成18年度集落営農緊急育成サポートツール開発事業において、集落営農の育成を支援する指導者が支援活動の際に簡単に利用できるツールとして「集落営農緊急育成サポートツールVer.1.0」が(社)日本農村情報システム協会、(社)全国農業改良普及支援協会により開発されました。(19年度も引き続きソフトの開発・改良を行います。)

- このツールの主な内容としては、
- (1) アンケート作成、回答入力、結果分析
 - (2) 交付金の試算、農地利用集積等による集落営農の簡易試算(経営計画シミュレーション)
 - (3) 農家・圃場台帳(営農台帳)、農作業タイムカード、資金繰り表の作成やタイムカードの集計などとなり、集落の現状把握から集落営農体制の提示による集落営農への合意形成と集落営農の組織化に伴った経理・労務管理が行えるようになっていきます。

皆様の集落営農育成のツールとして、是非ご活用いただきたいと思えます。

○「集落営農緊急育成サポートツールVer.1.0」のダウンロードは以下のURLです。

連絡先(社団法人全国農業改良普及支援協会)
<http://www.ei-net.ne.jp/kyokai/supporttool/>

(操作やシステム内容についてはホームページに記載のある、社団法人日本農村情報システム協会にお問い合わせください。なお、CD-ROMでの配布についてもご相談に応じています。)

【農林水産省生物多様性戦略の策定について】

農林水産業は生物多様性に立脚した産業であり、農林水産政策の展開にあたっては、従来から環境保全型農業や環境に配慮した生産基盤整備を推進しているところ。

一方、平成4年には、地球サミットにおいて「生物多様性条約」が採択され、我が国においては本条約に基づき平成7年に「生物多様性国家戦略」を策定、14年に見直しを行い「新・生物多様性国家戦略」を策定しております。このたび農林水産省において、農林水産業と生物多様性に関する課題や施策

を明らかにし、生物多様性保全を推進するため、「農林水産業生物多様性戦略」を7月に策定したところです。

農業関係の取組みについては戦略中に「田園地域・里地里山の保全」としてまとめられており、農薬・肥料等の生産資材の適正使用、土づくり、環境保全型農業、有機農業等を含め生物多様性保全の視点に立った農業の推進について記載されております。

この様な、生物多様性保全に資する農業生産については、これまでも普及組織が生産現場において果たしてきた役割は大きく、兵庫県のコウノトリの事例のように、農業の枠を超えた取組についても普及組織が積極的に関与しているものもあり、生物多様性を重視した農業生産活動に関しても、地域における普及活動への期待は高いものと考えております。

現在、環境保全型農業や有機農業の推進等について各都道府県で様々な取組が行われていますが、生物多様性の保全という観点からも、今後とも推進していくことで国民の共感を得ていくことにもつながると考えられますのでよろしくお願いいたします。

(生物多様性戦略)

<http://www.maff.go.jp/kankyo/senryaku/index.html>

【 知的財産専門研修及び支援窓口の開設のお知らせ 】

育成者権等の権利取得や権利侵害への対応、品種登録出願書類の作成、植物の特性調査のノウハウ等の習得を目的とした知的財産専門研修を(独)種苗管理センターが実施機関となり、全国4会場を実施することとしております。

その第一回目の研修が7月17日～20日につくば会場で研修が行われました。農林水産省における知的財産戦略や地域ブランド作り、知的財産権の各種制度等の講義に加え、品種登録出願書類の作成や特性調査について、実際に切り花を使用して実習を行うなど体系的に実施されました。

受講後のアンケートを見ると、

「大変、有意義な研修(講義)ばかりでした。次年度以降当県からも更に多くの普及指導員が参加できるよう努めたいと思います。」

「この研修はこれまでに受けたいろいろな研修の中で、最も収穫が大きかった。是非たくさんの人に聞いてほしい。聞かせてあげたいと思った。」

「本当に素晴らしい研修ができたこと心より喜んでおります。帰県したら、できる限り多くの普及指導員に伝えたいと思っています。」

等のご意見を頂き、大変好評でした。

残りの3会場は、下記の日程で実施しますので、多くの普及指導員の方々にご参加頂きますようご案内致します。

- 仙台会場
日時：8月28日(火)～31日(金)
場所：仙台市民会館
- 笠岡会場
日時：10月9日(火)～12日(金)
場所：(独)種苗管理センター西日本農場(1日目)
笠岡市民会館(2日～4日目)
- 熊本会場
日時：11月27日(火)～30日(金)
場所：ホテル熊本テルサ

<研修カリキュラムはこちらをご覧ください>

<http://www.ncss.go.jp/main/osirase/osirase.html#kensyu>

<問い合わせ・申込先>

農林水産省経営局普及・女性課研修指導班(TEL:03-6744-2162)

※ 一部の講義のみの受講も可能ですので、希望される方はお問い合わせください。

※ 都道府県関係職員の方々も受講頂けます。

また、普及指導員の知的財産に関する活動を支援するための窓口を(社)全国農業改良普及支援協会HP内に開設しました。本窓口では、普及指導活動の際に生じた質問等に対して、弁理士や品種保護Gメン等の専門家からの回答や、知的財産関連情報の提供を行ってまいります。ぜひご活用下さい。

<知的財産支援窓口>

<https://www.ek-system.ne.jp/www/toppage/000000000000/APM03000.html>

【農業改良資金最新貸付事例紹介】

「集落営農組織に対する農業改良資金貸付の事例」

～集落ぐるみの協業経営導入による効率的・安定的な農業経営の実現～

1. 借受者の経営概要と借入の動機

借受農家の地区は中山間地域に位置し、大半の農家は零細な農業経営状況にあり、農業者の高齢化や後継者不足による将来の危機意識が高まっていた。このため地区内での検討会を重ねた結果、平成18年秋に集落営農組織を立ち上げ、効率的で安定的な農業経営の実現を図ることとした。今後は3年後を目途に法人化を目指すこととしている。

2. 貸付資格の認定を行った判断理由・内容

本事例は集落営農組織を立ち上げ、農業改良資金を活用して新たな機械・施設を整備し、農家が組織内に配置したオペレーターに基幹作業を委託する集落ぐるみの協業経営により能率的作業を行うものである。このことにより、農地の利用集積が促進されるとともに生産性の向上が実現され、よって農業経営の改善と経営の安定に寄与する。

3. 普及指導センターの対応

集落営農組織の立ち上げについての助言や資金借入れのための経営改善資金計画書の作成等の支援を行った。今後は法人化への移行に向けた支援や経営改善、栽培管理技術向上等の指導を行う。本事例は、品目横断的経営安定対策に対応する集落営農の組織化に取り組もうとする地域の参考になると思われる。

4. 導入した機械、施設等

区分	事業費	借受額
格納庫、乾燥機等一式	9,127千円	6,800千円

5. 農業改良措置の内容

○認定基準
農畜産物の生産方式の導入

○具体的作物名
米・大麦

◇◆◇農業技術研修館からのお知らせ◇◆◇

「繋ぎ飼い飼養における新酪農システム導入研修のご案内について」

農林水産省農林水産研修所農業技術研修館では、緊プロ事業で開発された搾乳ユニット自動搬送装置、細断型ロールペーラ、家畜ふん尿高精度固液分離装置の3機種を組み合わせた新酪農システムの普及に資する研修を開催します。

新酪農システムは、サイロ詰めなどの人力作業の解消による作業の軽労化や搾乳作業の大幅な省力化、ふん尿の堆肥化による臭気発生抑制等環境改善を図り、ゆとりある酪農をめざすものです。

研修では、繋ぎ飼い飼養における新酪農システムの概要、新酪農システムの経営的評価、導入した機械・装置の利用効果の講義、課題検討による意見交換（各産地の現状と課題）、新酪農システム機械化体系の実演・実習（ほ場において、細断型ロールペーラ、ラッピングマシンを用いてデントコーンの収穫・ラップ作業をします）、新酪農システムを導入した牧場（栃木県真岡市）の見学など幅広い内容となっておりますので、ふるっての参加をお願いします。

※ 「細断型ロールペーラの開発と高品質コーンサイレーズの調製技術」（生研センター細断型ロールペーラ研究開発グループ・代表 道宗直昭畜産工学研究部長）は、平成18年度の畜産大賞の研究開発部門で最優秀賞を受賞。

【実施日】 9月19日（水）13：00～21日（金）14：45（終了予定）
【人数】 20名
【場所】 農業技術研修館

茨城県水戸市鯉淵町5930-1
最寄り駅：JR常磐線友部駅下車
バスで約15分又はタクシーで約10分

【申込締切日】9月5日(水)

研修日程、研修申込方法等詳しくは、農業技術研修館ホームページをご覧ください。
<http://www.kanbou.maff.go.jp/atti-kensyukan/>

【お問い合わせ先】
担当：飯田又は杉山
TEL：029-259-2321
FAX：029-259-2589

◇◆◇先端産業技術研究課からのお知らせ◇◆◇

「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」研究紹介2006について

農林水産現場の技術開発を促進する競争的研究資金事業で得られた主な研究成果を紹介した「『先端技術を活用した農林水産研究高度化事業』研究紹介2006」が公表されましたので、お知らせいたします。
生産現場での普及指導にご活用下さい。

【農林水産省ホームページ】
<http://www.s.affrc.go.jp/docs/kankoubutu/high2006.pdf>

【問い合わせ先】
農林水産省技術会議事務局 先端産業技術研究課
産学官連携研究推進室 越沼
電話 03-3502-8111(内線5894)
03-3502-5530(夜間直通)

♠・編集後記・♪

7月は台風、地震と災害が続き、農業への被害も大きかったことと思います。被災地におかれては一日も早い回復を願います。
今年は梅雨入りだけでなく、梅雨明けもいつになく遅くなるようです。作物の生育への影響については、この1~2週間ほどは日照量も回復し、気温も高くなっており、少し安心といったところでしょうか。
外は真夏日、また子どもたちは夏休みです。現場の生産者、普及指導員の皆様におかれましては、多忙と暑さで体を壊されぬよう気をつけていただきたいと思います。

今号でご案内の通り、農林水産省生物多様性戦略が策定されました。我々の生活そのものが生物多様性の上に成り立っており、適切な農林水産業は生物多様性の保全に資するという考えに立って取りまとめられています。生態系の保全は、地球にやさしくするためではなく、人間が末永く健康に暮らしていくために我々がしなくてはならないことであると思います。

@ 編集委員 U ◎

このメールマガジンに関するご意見・ご要望などがございましたら、下記までご連絡願います。

03-3501-3769

バックナンバーは、普及事業ホームページ
<http://www.maff.go.jp/soshiki/nousan/fukyuuka/newsite/e-bn.htm>
から閲覧できます。

配信先の変更、配信停止等につきましては、農林水産省のホームページから手続きをお願いいたします。
農林水産省ホームページ→メールマガジン→配信変更・配信解除(パスワードが不明な場合はパスワード再発行)へ進んで手続きをお願いいたします。
<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>

メルマガ39号.txt

*** ご注意 ***

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものがあります。
PDFファイルをご覧頂くためには、農林水産省ホームページにある
「Get Acrobat Reader」のボタンでAcrobat
Readerをダウンロードしてください。